

# 令和4年度 自己評価シート

幼保連携型認定こども園  
東植田こども園

## 1. 本園の教育・保育目標

生きる力の基礎を育むため、幼保連携型認定こども園の教育及び保育の基本を踏まえ、次に掲げる資質・能力を一体的に育むよう努める。

- ・ 豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」
- ・ 気付いたことやできるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」
- ・ 心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」

## 2. 本園の重点的に取り組む目標・計画

幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び園の全体的な計画を踏まえて、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について、教職員がその内容を確認しながら共通理解を図り、こども園全体の教育・保育を高めるとともに、自身の資質向上に努め、保護者や地域からの理解が得られるよう努める。そして、更に、小学校へのスムーズな接続につなげていく。

## 3. 評価項目の達成及び取組状況

A:十分達成されている B:達成されている C:取り組まれているが成果不十分  
D:取り組みが不十分

	取り組み内容	評価
充実 教育・保育の	教育・保育理念に基づき園の全体的な計画を作成し、教職員間で共通理解を図っている。	B
	園の方針や特色を指導計画や保育実践に生かそうとしている。	B
	遊びの中で言葉や文字・数字に興味をもてるようにしている。	C
	身体を動かす機会を十分に確保し、身体を動かす楽しさを味わえるようにしている。	A
	子どもの表現を積極的に受け止め、様々な表現に仕方や感性を豊かにする経験となるようにしている。	C
	栽培活動や調理活動など食育活動を推進している。	C
	配慮が必要な子どもに対して、職員間で共通理解を図り、適切に対応している。	B
	安全管理や防災活動を適切に行っている。	B

	取り組み内容	評価
連携 保護者・地域との	園の教育・保育方針について、保護者のわかりやすく伝えている。	B
	園の教育・保育方針や園の情報をお便りやホームページ等で地域に発信している。	C
	保護者のニーズの把握に努め、教職員間で共通理解を図り、要望や苦情に適切に対応している。	B
	小学校との連絡会や研修会、交流会等の機会を設け、連携に努めている。	C
	地域の行事への参加や世代間交流の機会を積極的に設けている。	C
資質 保育者の	子どもの育ちと人権を第一に考え、保育にあたっている。	B
	まわりの人の良いところを見つけ、感謝する姿勢を持っている。	B
	自分の感情を把握、し受け入れた上で、冷静にコミュニケーションしている。	B
	職務上知り得た個人情報を適切に取り扱っている。	B
	資質向上のために、保育の情報収集や自己研鑽を積極的に行っている。	C

#### 4. 令和4年度を終えるにあたって

いまだコロナ禍の状況は続き、園としては、できうる限りの対策を講じながら、日々の教育・保育活動が、なるべく、コロナ禍以前に近づいて行けるように苦心した1年であった。

3年にわたるコロナ禍が0,1歳児から就学前の5歳児の成長と発達にどれだけ悪い影響を与えたかは、マスクの問題一つをとっても計り知れないと思われる。特に、幼保小連携の観点から、コロナ禍以前に積み上げてきた用日尾小連携協議会や小学校との児童同士の交流体験が実施できず、小学校へのスムーズな接続のための取り組みが十分に出来なかった。

また、園内行事では、参観日や運動会、発表会などの行事の際には、人数制限や健康観察の徹底、会場の換気や除菌など気遣うことが多かった。

更に、職員の研修会もZOOMがほとんどで、実技研修などの充実が図れなかったと思われるが、園内研修で補うように心がけてきた。

今後も、この環境の中で教育・保育をしていく事を考えると、本来の子どもの成長のために出来ることを計画し、実現していくために、これまで以上の全体研修や自己研鑽が求められると思われる。